

【平成 17 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 涼子 担当科目名：被服構成(洋裁Ⅱ)

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生がどのように受け止めているかが解るのは大変良いことだと思う。但し、科目によって学生の受け止め方(理解)に違いがあるのではないかと思う。
- (2) 活用：特に実習の場合は、実習内容を個々の学生に合わせて授業を進めることでより効果が上がるかことが判ったので、次の授業計画に役立てたい。
- (3) フィードバック：評価結果を伝えると、実習なので学生自身が自分の努力次第で成果が目に見えるということが判って出た評価結果のようである。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：実習と講義とでは、授業の進め方も違うが、緊張感の中で実習を覗いてもらうことにより、次の授業への準備にも緊張感が沸き刺激となる。
- (2) 活用：他の授業を参観させて貰うことにより、自分自身勉強になったことが多くあった。また、参観して頂いた先生方の評価を参考により良い実習の計画に役立てたい。

3. 自己評価点 (3)

根拠：学生達と楽しく授業を進められたが、もう少し静かに落ち着かせ、個人指導の際全てに手を出すのではなく、時間がかかっても、学生自身に考えさせることも必要と常に反省している。

4. 教育指導上の工夫について

被服の実習内容は、日常生活の中で必要とされるものであるが、食事のように常に必要とされるものではない。数年前まではどこの家庭にもミシンがあり、被服関連の物が家庭の中で作られ様子を見ることができたが、今ではミシンのある家庭の方が珍しい時代である。その中で形ある物を作り出すことは並たいていのことではない、しかし、物を作り上げるというその過程と完成時の達成感と喜びは、何時の時代においても大切な事だと思う。次のように実習の効果を上げる工夫を試みる。

実習の効果を上げる工夫を次のように試みる。

- ①針が上手く使えるように繰り返し練習をすることで克服する。ただし、かなりの努力と忍耐力を要する。作品を作り上げるのに必要な根気を養うにも良い。
- ②他の科目と同じように一人一人技術(能力)の差がある。その差を最初は個別指導から入り縮めていく。
- ③被服製作に興味を持ち好きになってもらう、そのためには、基礎的な縫い方を取り入れた形ある物を完成させて、物作りの喜びと達成感を味合わせる。
- ④作品が、完成した時に受講生全員が満足感と自信がもてるように、能力(技術)別に裁目を選んで実習をする。
- ⑤指導がどうしても、個人別になる可能性が強いので、少々他の科目に比べると贅沢と思うが、実習室の設備の関係からも、受講生の数を10名迄としたい。
- ⑥一番大切なことは、実習を通して物を作り際の順序の重要性、材料の適切な使い方、その材料を大切に無駄なく使い利用することを学ぶことだと思う。

【平成 18 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 涼子 担当科目名：家族援助論

1. 授業評価について

- (1) 意義：今回は、定評のあるクラスの授業を選んで観ていただき、学生のある部分での成長を知ることができた。
- (2) 活用：授業形式としては初めての方法で行ったので、理解の確認を徹底する難しさ感じ次回への活用としたい。
- (3) フィードバック：反省点ばかりの中、グループ発表のあり方を少しは、知ることができた。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：学生が、平素の授業も含めてこちらの伝えたいことをどの程度受け止めてくれているか解かり、今後の指導方法を考えるための参考になる。
- (2) 活用：今後の授業改善に役立てたいと思うと同時に、学生の緊張感の無さをどう指導すべきか活用方法模索する。

3. 自己評価点 (3)

根拠：授業形式としては、初めての試みであったが、事前指導の徹底に甘さを感じ反省させられた。

4. 教育指導上の工夫について

今回は、意識をして保育士コースの授業を選び授業としては、初めてのグループ発表形式を取ってみた。事前指導に於いて全員の参加・内容の把握・グループの意見を必ず入れる・あいさつ・言葉使い・服装などについて行ったが、結果は、誉められたものではなかった。初めてのことはいえ今後、反省も含めて次の工夫をしたい。

- ①グループを決める際リーダーとなりうる人物を必ず入れる。
- ②テーマの内容についてグループ毎の勉強会を徹底させる。
- ③グループ全員が、一言でも発表するようにする。
- ④事前指導の内容を徹底させる。
- ⑤発表会後の講評を指導者だけでなく学生全員の意見交換会を設ける。
- ⑥保育士コースなので、何れ子供たち、保護者の方々とのコミュニケーションをとらなければならないので、人前で話すことに少しでも自身がもてるように効果を上げるためには、学生数が現在の半数位が理想である。

【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 涼子 担当科目名：家族援助論

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生による授業評価は、学生の興味・理解度・何を考えているか、ある程度把握でき次の授業に役立てることが出来る。
- (2) 活用：評価の項目毎に分析をして今後の授業改善に活用できる。
- (3) フィードバック：評価及び自由記述をフィードバックすることにより、学生自身が納得反省する部分と併せて、教える側も読めてくる部分がある。

2. 自己評価点 (3)

根拠：授業を講義形式ばかりでなく、学生参加型のグループ形式でやってある程度の効果はあったがまだまだ改善の余地があると思う。

3. 教育指導上の工夫について

・本授業は、プリントを使用している授業である。そのプリントの内容を理解・把握し、以後参考にしたい場面があった時にそのプリントが直ちに役立つようにプリント整理の方法を考えさせ整理させた。整理については、性格的なものもあると思うが、誰がみても解るようにきちんと整理できている学生と整理したとはほどよい状態の学生の差が大きかった。次の機会には、できる学生をアシスタントとして、できない学生のサポートをさせてみてその効果を見たいと思う。

・次に昨年のグループ発表の反省をもとに、今年はグループを決める際にリーダーとなり得る学生を必ず入れて、リーダーを中心にグループ全員で課題研究をし、必ず全員が発表をおこなった。発表終了後、全員で意見交換を行いコミュニケーションのとり方は、昨年より上手くできた。ただ、現段階では学生数が今の半数位だともっと効果的だったのではないかとおもわれる。

昨年、今年と実施したことを反省し次につなげたいと思う。同一学生で実施する方がより効果がわかると思うが仕方ない。

・学生の自由記述のなかに「自分たち学生の授業に対する意識改革が必要」とあったその意識改革と合わせて指導上の工夫をするともっと効果的結果が出ると思われる。

【平成 20 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 涼子 担当科目名：被服構成(洋裁Ⅱ)

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生がこの授業をどのように受け止め、どのように受け入れているか解るので 良いと思う。但し、学生の中には、設問の意味の理解できない者もいる。
- (2) 活用：評価結果を基に今後の授業改善に役立てることに意義がある。年毎に学生の様子にも変化があり、学生の様子を掴むのにも活用できる。
- (3) フィードバック：評価結果をフィードバックすることにより、学生自信が自分の努力の成果を確認することができ有意義である。但し、科目差があると思う。

2. 自己評価点 (4)

根拠：当初学生の差が気になり、裁目を同じものにせず2つのコースに分けて実習を行ない良い結果となった。

3. 教育指導上の工夫について

現在は、日常生活の中で被服製作など殆んどされていない、ましてやミシンのない家庭が殆んどと言っても過言ではない。また、この科目の履修に当たり本来だと被服構成(洋裁Ⅰ)の履修済みが望ましかったのだが取得単位の関係上止むおえなかった。

実際には、洋裁Ⅰの履修済み学生と履修していない学生が半々であった。

実習の効果を上げる工夫改善は、下記のように試みた。

- ①まず洋裁Ⅰの履修済み学生と履修していない学生に別け席次も離れた。
- ②裁目も別々にし、洋裁Ⅰを履修していないグループには、まず針に慣れるために、基礎縫いからはじめた、その作業に学生がついてこられるかどうか心配をしたが真剣に取り組んでくれた。それが教員は、学生のレベルを把握して授業を行ったの評定が4.69にあらわれたと思う。

洋裁Ⅰを履修した学生には、洋裁Ⅰで習得した自信を持って実習を行ない、同じ結果が得られた。

- ③上記のような結果を出すためには、個人指導が必要で、その個人指導も一人一人の技術力と精神力(性格)を掴む努力が必要である。(授業中順番に指導をして、ある学生の所へ行くと、「今日はお手柔らかにお願いします」と言われ理由を聞くと、先週の指導がとても怖かったと言われ 反省をした。他の学生に聞くと、力の入りすぎる時が多々あるようである。
- ④以前被服構成(洋裁Ⅰ)を取り上げた時と同じことだが、授業の内容上助手さんが居てくれるともっと授業の効果が上がる。
- ⑤実習室の設備の関係上、受講学生の人数も12名までが望ましい。

*ものを作る授業のため、作業の楽しさ、作業の能率を上げるためには、どうしたら良いか、完成の感動を学生一人一人が味わうためにも、もっと工夫が必要か課題である。

【平成 17 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：溝口 綾子 担当科目名：音楽特講(音楽実技)

1. 授業評価について

- (1) 意義：個人対応授業という本講座の性格上、学生にとって評価が難しい項目がある。他の評価結果は指導方法や教材開発の再考において有意義である。
- (2) 活用：評価結果を総合的におさえた上で、学生の授業に対する意欲、態度や練習方法を捉え直し、学習効果に活かすことができる。
- (3) フィードバック：本講座は個人対応の実技指導なので、評価結果を即、個々の学生に明確なフィードバックは難しい面がある。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：本講座は専門的技術の習得が目的の一つであるため、技術指導の側面での相互評価がどの程度可能かという点では意義は薄い。
- (2) 活用：各学生の進度に応じた指導と学生の真面目な授業態度についての高い評価を受け止め、さらに授業効果の促進に活かしていく。

3. 自己評価点 (4)

根拠：本講座の性格上、各学生に即した指導が重要であるため、同じ教材でも学生の習熟度や意識の有りようによって指導を変えている。4. 教育指導上の工夫について

本講座は、音楽実技の習得の個人対応授業である。そのため、以下のような指導上の工夫が必要である。

- (1) 学生一人について、週1回、10分の授業時間内で与えられた教材の習得・理解を図る。
- (2) 入学前の音楽技能経験の有無により、教材を選択して提示する。
- (3) 教材は、ピアノ用テキストと歌唱用テキストを併用し、進捗と習熟度により曲を選択し提示する。
- (4) 個々の学生の音楽全般についての能力を捉え、必要に応じて示範演奏や奏法の指導を行う。
- (5) 歌唱指導においては、ソルフェージュと曲想を意識した歌唱および伴奏の習得を目指した指導を行う。

【平成 18 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：溝口 綾子	担当科目名：音楽特講(音楽実技)
----------	------------------

1. 授業評価について

- (1) 意義：個人対応授業という本講座の性格上、学生にとって評価が難しい項目がある。他の評価結果は指導方法や教材開発の再考において有意義である。
- (2) 活用：評価結果を総合的におさえた上で、学生の授業に対する意欲、態度や練習方法を捉え直し、学習効果に活かすことができる。
- (3) フィードバック：本講座は個人対応の実技指導なので、評価結果を即、個々の学生に明確なフィードバックは難しい面がある。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：本講座は専門的技術の習得が目的の一つであるため、技術指導の側面での相互評価がどの程度可能かという点では意義は薄い。
- (2) 活用：各学生の進捗に応じた指導と学生の真面目な授業態度についての高い評価を受け止め、さらに授業効果の促進に活かしている。

3. 自己評価点 (4)

根拠：本講座の性格上、各学生に即した指導が重要であるため、同じ教材でも学生の習熟度や意識の有りようによって指導を変えている。

4. 教育指導上の工夫について

本講座は、音楽実技の習得の個人対応授業である。そのため、以下のような指導上の工夫が必要である。 (1) 学生一人について、週 1 回、10 分の授業時間内で与えられた教材の習得・理解を図る。 (2) 入学前の音楽技能経験の有無により、教材を選択して提示する。 (3) 教材は、ピアノ用テキストと歌唱用テキストを併用し、進捗と習熟度により曲を選択し提示する。 (4) 個々の学生の音楽全般についての能力を捉え、必要に応じて示範演奏や奏法の指導を行う。 (5) 歌唱指導においては、ソルフェージュと曲想を意識した歌唱および伴奏の習得を目指した指導を行う。 (6) 練習室と授業の部屋が同じため、待っている学生はキーボードでヘッドホンをを使って練習することになる。しかし、進捗の速い学生の楽曲は、ヘッドホンをしているも響いてしまうなどの難点を改善したい。 (7) 機器が消耗することを踏まえ、年度末に点検し、補充、改善したい。

【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：溝口 綾子	担当科目名：幼児教育課程論
----------	---------------

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の授業に対する全体的傾向を客観的に把握できるため、指導の方法や教材開発の再考において有意義である。
- (2) 活用：本授業は、幼稚園教育を学ぶ上で基盤をなす学習であるため、評価結果を総合的におさえた上で授業に対する意欲、態度、学習方法を捉えなおし、学習効果に生かすことができる。
- (3) フィードバック：本授業は一コマ 45 分授業なので、個々の学生に明確なフィードバックは難しい面もあるが、関連している内容

に応じてフィードバックしていく。

2. 自己評価点 (3)

根拠：(本授業は、他の専門科目との密接な関連や基本的小さくおさえておくべきことを理解させ、周知してきたことが学びへの意識を高めている。)

3. 教育指導上の工夫について

本授業は、幼稚園教育を学ぶ上で基盤をなす学習である。それゆえ、授業の内容は全てを理解できるように配慮することが必要である。 (1) 教科書と幼稚園教育要領とを並行して使って説明することにより、内容がわかるようにする。 (2) 幼稚園教育要領は読むだけで理解するのは難しい面がある。そこで、保育内容の五領域とねらい・内容を関連付けて読み取る作業を個々の学生に行わせることで、その意味付けを理解できるようにする。 (3) 幼児の発達や保育の活動内容については、言葉だけでなく事例(幼児の姿、教師のかかわり、環境の構成)を資料として作成し、具体例を挙げて説明する。 (4) 保育の基礎理論を真に理解させるためには、学生自身が実際の保育場面で具現化することで得られる。保育の実践場面において、幼児の言動の意味や幼稚園教育の目指しているものを具体的に理解できるような機会を設定し、フィールドワークを行えるようにする。 (5) フィールドワークを行った後は、その都度レポートを提出させ、添削し質問や疑問に答えていく。

【平成 20 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：溝口 綾子	担当科目名：保育内容の指導法(表現 I)
----------	----------------------

1. 授業評価について

- (1) 意義：幼児の表現及び保育者自身の表現力を学ぶという本授業において、評価結果は、指導方法や教材開発の再考に有意義である。
- (2) 活用：評価結果を総合的におさえた上で、学生の授業に対する意欲、態度、実践活動を捉えなおし、学習効果に活かすことができる。
- (3) フィードバック：本授業は、講義の他、表現者としての保育者を学ぶために実践的演習を取り入れているので、評価結果を明確にフィードバックして改善に向けられる。

2. 自己評価点 (4)

根拠：本授業は、保育理論とともにその裏づけともなる保育技術を獲得できるように授業を組み立てたことによる。

3. 教育指導上の工夫について

本授業は、幼児教育の考え方の基本に領域「表現」を位置づけ、その意味を学習するものである。ここでいう「表現」は、子どもが日常生活を送る中で表す行為全体を「表現」として捉えていくという姿勢が根底にある。そのため、以下のような指導上の工夫が必要である。 (1) 幼児の表現を理解させるために、テキストの事例の他、実際の保育場面を観察することによって、理論と実際を結び付けて理解できるようにする。 (2) 幼児の表現を理解するためには、保育者となる学生自身が豊かな感動体験できる機会を与え、感性を高められるようにする。 (3) 表現モデルとしての保育者に必要な経験として、パネルシアターやペープサートなどの造形的活動をグループワー
--

クさせることによって、保育現場でも必至である協働体験の機会とする。

- (4) 完成した作品を実際の保育現場で試す機会をつくることによって、幼児たちの生の声を実感させる。

【平成 17 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：菊地 紀子 担当科目名：情報基礎演習Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生からの評価を受けることにより授業改善に繋がる。
(2) 活用：授業評価を基に授業改善を行っている。
(3) フィードバック：口頭により行っている。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：学生からの評価だけでなく、教員間の相互評価は、教える内容は違っても、授業改善に繋がる。また学生の現状がわかる良い機会である。
(2) 活用：授業改善に繋げる。また、どの科目でも指導が必要な学生に対し、連携して対策を講じられるようにしていくことが肝心である。

3. 自己評価点 (4)

根拠：昨年度の授業評価の要望を受け、単位認定試験を実施した。また、授業内容の理解度を把握するため、小テストを実施し、授業を補完する目的で WebCampus のフォーラムの利用を開始した。

4. 教育指導上の工夫について

入学以前のコンピュータリテラシー経験を入学当初アンケートにより調査し、座席の調整を行っている。また、後期には情報基礎演習Ⅰの様子によって、座席の調整を行っている。しかし、座席の調整だけでは限界がある。本来であればコンピュータリテラシー経験の有無によってクラス分けが出来るとう良い。

例年授業評価では、学生個々のコンピュータリテラシーの格差から来るレベルを把握していない、進度が適切でないなどの要望が寄せられたため、今年度は単位認定試験を実施したが、合格するものはいなかった。

授業の相互評価の所見に、進度の遅い学生に授業を合わせなくてはいけないので、速い学生をもっと伸ばしてあげることが難しいと思われたとあるように、遅い学生に対しても、速い学生に対しても不満の残ることは、50名規模の集合教育の限界を感じる。

現に前期の少人数の選択科目においては、全員の満足が得られる結果となっていた。

また、進度の違いが文字入力速度に比例していることは、単位認定試験に合格者がいないことでも明らかであり、進度を一定に保つためにも、前期から文字入力の練習を続けているが、授業以外に練習をする姿は見られない。

前期の文書作成と違い、表計算になると途端にわからなくなる学生が多いため、最終試験だけでなく、理解度を把握するため、小テストを実施し、毎回授業の要点、小テストの結果などを Web Campus のフォーラムで受講者に公開しているが、受講者からの質問など反応は何もない。おおよそ全員が見ていることは確認できているので、今後は双方向の媒体として機能させる工夫をしたい。

【平成 18 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：菊地 紀子 担当科目名：情報基礎演習Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生からの評価を受けることにより授業改善に繋がる。
(2) 活用：授業評価を基に授業改善を行っている。
(3) フィードバック：口頭により行っている。

2. 授業の相互評価について (評価員なし)

- (1) 意義：
(2) 活用：

3. 自己評価点 (4)

根拠：例年 Excel の習得だけでも難しい面があるため、Excel の習得に力を入れてきたが、これからの教育としてプレゼンテーション技術も必要と考え、授業内容に Power Point を取り入れた。

4. 教育指導上の工夫について

前期情報基礎演習Ⅰの 15 回の授業の中で、日本語ワープロ検定を取得できる学生には取得させて、入力文字数から到底合格基準に達しない学生には、後期受験とした。

後期情報基礎演習Ⅱに Power Point を取り入れ、養護コースの学生には 1 日教育参加のプレゼンテーション資料を作成させるなど、専攻、コースに合わせた内容にしている。しかし、例年 Excel の習得だけでも難しい面があるため、後期受験とした日本語ワープロ検定は全員合格には至らなかった。

文書作成、表計算等アプリケーションソフトを問わず、コンピュータを操作する上では、キーボード操作が必要不可欠な条件であり、さらにタッチタイピングが出来る方がよいいため、前期からタッチタイピングの習得に向け指導をしている。キーボードカバーに目隠しの役割として色分けのテープを貼り、決められた指で決められたキーを打つときの目安としている。しかし、タッチタイピングを身につけるには至っていないので、更なる工夫をしたい。

【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：菊地 紀子 担当科目名：情報基礎演習Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生からの評価を受けることにより授業改善に繋がる。
(2) 活用：授業評価を基に授業改善を行っている。
(3) フィードバック：口頭により行っている。

2. 授業の相互評価について (実施なし)

- (1) 意義：
(2) 活用：

3. 自己評価点 (4.5)

根拠：例年の前期後期の授業内容を入れ替え、後期には前期の入力文字数からクラス分けを行って、学生の入力速度に合わせて授業を進行できるようにした。さらに授業の空席開放や放課後補講等可能な限り、日本語ワープロ検定取得に向けた支援を行い、その成果があった。

4. 教育指導上の工夫について

新入生に対する年度始めのアンケートにより、文字入力、Word については、個人差がかなりあることが前年度の調査から明らかとなっていた。それに対して、Excel、PowerPoint は、あまり個人差がないことが明らかとなっていた。今年度も同じ傾向と考えられたので、前年度まで前期に Word による

文書作成及び日本語ワープロ検定取得、後期にExcel、PowerPointによる表計算とプレゼンテーション資料作成というカリキュラム内容を見直し、前期と後期のカリキュラム内容を変更した。

前期は、Excel、PowerPointによる表計算とプレゼンテーション資料作成の中で、文字入力に力をいれ、後期のWordによる文書作成及び日本語ワープロ検定取得において、全員合格を目指すこととした。しかしながら、入力文字数が合格基準に達しない可能性のある学生に対し、自主練習を促しても一向に練習している気配が見られず、最終的には強制参加という形で放課後に補講を行ったが、それでも参加しない学生がいた。参加しない理由は様々であろうが、学生自信のやる気を引き出し、最終的にはタッチタイピングを身に付けさせられるように努力したいと考えている。アプリケーションソフトの使い方は忘れてしまうことがあっても、身体で覚えたタッチタイピングは一生忘れないからである。

これまでは、学生にとって馴染みのあるWordによる文書作成から始めた方が、教室の使い方にも慣れ、新入生にとっては情報教育の導入として良いのではないかと考えていた。それゆえ、今年度のカリキュラムの入れ替えは一つの冒険でもあったが、前年度と今年度の日本語ワープロ検定合格率からみると、今年度の方が上位級合格者が多く、自己評価点記載内容が功を奏したと考えられる。

【平成20年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：菊地 紀子 担当科目名：情報基礎演習Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生からの評価を受けることにより授業改善に繋がる。
- (2) 活用：授業評価を基に授業改善を行っている。
- (3) フィードバック：口頭により行っている。

2. 授業の相互評価について (実施なし)

- (1) 意義：
- (2) 活用：

3. 自己評価点 (4.8)

根拠：前年度の前後期のカリキュラムの入れ替えが功を奏したため、今年度も引き続き行った。さらに教育効果を上げるため、今年度はWeb Campusのフォーラムを活用した。以前の利用は、教員からの一方通行で学生は見るだけという利用であったが、今年度は、教員から教わるだけでなく、その補完として学生相互に助け合い、学び合うという利用の仕方を工夫した。それによって、学生のモチベーションが上がり、日本語ワープロ検定も上位級受検を望むこととなったが、実際の練習はアルバイトなどが忙しく、教室開放時にも積極的に行ったとは言いがたかった。そのため、合格に至らなかった者もいる。このことから更なる改善を試みたいと考える。

4. 教育指導上の工夫について

以前にフォーラムを活用した時は、教員からの一方通行で、学生は見ているだけということであったため、今回は、タイピングの練習も兼ねて返答を行うことや、タイピングの速い学生に、練習方法などをアドバイスしてもらい、それに対して返答することなどを指導した。その結果、普段の身近な人間関係を越えて、タイピングが速くなりたいと思っている学生と、私も以前はそうだったけど、こうしたらこんなにできるようになったという学生を結び付けて、やる気を起こさせ

たり、また違った学生からの返答により、教えたり、教えられたり、相互協力、相互支援が成り立ち、教員に教えられるよりもむしろ、よりスムーズに受け入れられて相乗効果を上げていると考える。対面で行う指導やコミュニケーションももちろん大切なことであるが、学生と教員の一对一の関係での質問と回答ではない、フォーラムを活用した教育効果が期待できると考える。その一つには、話したことはその場にいる学生しか聞くことができないことや、その場で消えてしまうが、フォーラムでは、後で見返すこともできるし、その他のクラスの学生の練習方法なども参考にすることができる。もう一つには、大学生にもなると、人前で話すことに抵抗がある学生でも、積極的にフォーラムに参加する姿が見られたことである。

【平成17年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：伊藤 能之 担当科目名：保育学Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の反応がさまざまな点で理解できる。
- (2) 活用：学生からの要望としてうけとめ授業に反映させる。
- (3) フィードバック：学生からの問題提起として常に念頭におき授業を組み立てる。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：各担当者の授業を学生と同じ視線で受けるだけでも意味がある。改めて気がつかされることが多い。また、各担当者の工夫もわかり、おおいに刺激となる。
- (2) 活用：自分が授業を行うときに、学生立場におきかけながら授業を心がける。

3. 自己評価点 (3)

根拠：授業準備等には時間をかけ学生理解を心がけている。ただ、学生への働きかけ等が自分の課題であると思われる。

4. 教育指導上の工夫について

学習能力の高い学生が多いと思われる。実力的には、かなりレベルの高い授業にもついてくることができると思われる。ただ、一部にその自分の能力に気がついていない学生もおり、その学生に自分の能力に気がつくように働きかけをしていきたい。

前期ははじめて保育に接する学生ということで、意図的にわかりやすさ、楽しさに重点をおいたが、前期に比べると後期は難易度が増したと思われる。特に学生は抽象度が高い内容に関しては興味を示さないことが多い。それが、なぜ、保育士という流れの中で必要になるか、具体的な事例と結びつけながら講義するよう心がけている。

ただ、一部には心身等個人的な問題で授業出席が困難な学生もおり、授業担当者間、およびカウンセラー等と連携をとりながら対応していく必要があると思われる。

【平成18年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：伊藤 能之 担当科目名：保育学Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の反応がさまざまな点で理解できる。
- (2) 活用：学生からの要望としてうけとめ授業に反映させる。
- (3) フィードバック：学生からの問題提起として常に念頭におき授業

を組み立てる。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：各担当者の授業を学生と同じ視線で受けるだけでも意味がある。改めて気がつかされることが多い。また、各担当者の工夫もわかり、おおいに刺激となる。
- (2) 活用：自分が授業を行うときに、学生立場におきかけながら授業を心がける。

3. 自己評価点 (3)

根拠：授業準備等には時間をかけ学生理解を心がけている。ただ、学生への働きかけ等が自分の課題であると思われる。

4. 教育指導上の工夫について

学習能力の高い学生が多いと思われる。実力的には、かなりレベルの高い授業にもついてくることができると思われる。ただ、一部にその自分の能力に気がついていない学生もあり、その学生に自分の能力に気がつくように働きかけをしていきたい。

前期ははじめて保育に接する学生ということで、意図的にわかりやすさ、楽しさに重点をおいたが、前期に比べると後期は難易度が増したと思われる。特に学生は抽象度が高い内容に関しては興味を示さないことが多い。それが、なぜ、保育士という流れの中で必要になるか、具体的な事例と結びつけながら講義するよう心がけている。

ただ、一部には心身等個人的な問題で授業出席が困難な学生もあり、授業担当者間、およびカウンセラー等と連携をとりながら対応していく必要があると思われる。

【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：伊藤 能之 担当科目名：保育学Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の反応がさまざまな点で理解できる。
- (2) 活用：学生からの要望としてうけとめ授業に反映させる。
- (3) フィードバック：学生からの問題提起として常に念頭におき授業を組み立てる。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：各担当者の授業を学生と同じ視線で受けるだけでも意味がある。改めて気がつかされることが多い。また、各担当者の工夫もわかり、おおいに刺激となる。
- (2) 活用：自分が授業を行うときに、学生立場におきかけながら授業を心がける。

3. 自己評価点 (3)

根拠：授業準備等には時間をかけ学生理解を心がけている。ただ、学生への働きかけ等が自分の課題であると思われる。

4. 教育指導上の工夫について

学習能力の高い学生が多いと思われる。実力的には、かなりレベルの高い授業にもついてくることができると思われる。ただ、一部にその自分の能力に気がついていない学生もあり、その学生に自分の能力に気がつくように働きかけをしていきたい。

前期ははじめて保育に接する学生ということで、意図的にわかりやすさ、楽しさに重点をおいたが、前期に比べると後期は難易度が増したと思われる。特に学生は抽象度が高い内容に関しては興味を示さないことが多い。それが、なぜ、保育士という流れの中で必要になるか、具体的な事例と結びつ

けながら講義するよう心がけている。

ただ、一部には心身等個人的な問題で授業出席が困難な学生もあり、授業担当者間、およびカウンセラー等と連携をとりながら対応していく必要があると思われる。

【平成 20 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：伊藤 能之 担当科目名：保育学Ⅱ

1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の反応がさまざまな点で理解できる。
- (2) 活用：学生からの要望としてうけとめ授業に反映させる。
- (3) フィードバック：学生からの問題提起として常に念頭におき授業を組み立てる。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：各担当者の授業を学生と同じ視線で受けるだけでも意味がある。改めて気がつかされることが多い。また、各担当者の工夫もわかり、おおいに刺激となる。
- (2) 活用：自分が授業を行うときに、学生立場におきかけながら授業を心がける。

3. 自己評価点 (3)

根拠：授業準備等には時間をかけ学生理解を心がけている。ただ、学生への働きかけ等が自分の課題であると思われる。

4. 教育指導上の工夫について

学習能力の高い学生が多いと思われる。実力的には、かなりレベルの高い授業にもついてくることができると思われる。ただ、一部にその自分の能力に気がついていない学生もあり、その学生に自分の能力に気がつくように働きかけをしていきたい。

前期ははじめて保育に接する学生ということで、意図的にわかりやすさ、楽しさに重点をおいたが、前期に比べると後期は難易度が増したと思われる。特に学生は抽象度が高い内容に関しては興味を示さないことが多い。それが、なぜ、保育士という流れの中で必要になるか、具体的な事例と結びつけながら講義するよう心がけている。

ただ、一部には心身等個人的な問題で授業出席が困難な学生もあり、授業担当者間、およびカウンセラー等と連携をとりながら対応していく必要があると思われる。